



祝 平和学園創立70周年

平和学園小学校同窓会 会長 倉澤 条太

平和学園は今年創立70周年を迎え、小学校では4月26日に創立記念礼拝がもたれました。10月には記念行事として、公開の記念礼拝とオープン・スクール、そして同窓会主催の「平和学園創立70周年記念大同窓会」が行われます。どうぞ今の平和学園をご覧になってください。そして大同窓会で懐かしい先生方、旧友との交流を楽しんでください。「平和学園創立70周年記念大同窓会」は合同クラス会というふうにとらえて、各級で声を掛け合って参加して下さい。

また、小学校は前身の白十字会林間学校創設から100年目となります。その歴史への思いも新たにしていだければ幸いです。



学校法人平和学園 学園長 所澤 保孝

前任者中山洋司先生の後任として4月1日より学園長に就任いたしました所澤保孝と申します。思い起こせば平和学園との出会いは22年前にさかのぼり、ここ12年程は保護者または理事者として学園に連ならせていただきました。このたび再び学園にご奉仕する機会が与えられましたことを誠に光栄に存じ上げますと同時に責任の重さに恐れております。

先日、小学校の自然教室の開会礼拝を担当するべくYMCA山中湖センターに行きまして。初日は大変な強風、大雨、濃霧という荒天の中、やっとYMCAにたどり着くことが出来ました。はからずも、子ども達は自然の猛威を実感した初日でした。幸いに天候も180度回復して、同窓生の皆様には懐かしく思い出されることと思いますが、オープンチャーチから見た山中湖畔、庭にそびえる雄大なシンボルツリーを目の当たりにして悠久の時間を感じました。自然散歩、ゲーム遊び、カレー作り等楽しそうに取組む子ども達を見て、通常環境以外の自然の中で共同生活をしたり、観察や発見をすることの重要さを改めて認識させられました。

また、この野外体験施設はわが国でも最も歴史があり、東京YMCAによって運営されているものであることを知りました。東京YMCAと言えば、創設者は江原素六であり、平和学園小学校の源流である白十字会林間学校の初代校長も江原素六です。約100年も前に始まったことが、今でも脈々と平和学園の教育の中に流れていることを知って感動いたしました。

平和学園の初代理事長であった賀川豊彦先生は、われわれに「神と人との雑巾になれ」と述べられておられます。私は年代物の雑巾でお役に立てるかどうか心もとない存在ですが、神様は古雑巾は古雑巾なりに使いみちを示されるものと信じています。

これから同窓生、保護者、教職員の皆様と一緒に、平和学園小学校に集う子どもたちが一段と光り輝いてゆくように全力を尽くしてまいりたいと存じます。皆様からのご支援・ご協力を宜しく賜りますようお願い申し上げます。

記念行事

平和学園創立70周年記念礼拝
10月5日(水) 午後1時より

オープン・スクール
10月5日(水)～7日(金)

平和学園創立70周年記念大同窓会 (同封の別紙に詳細)
10月8日(土)

「第31回 クリスマス・チャリティー・
パイプオルガン・ファミリー・コンサート」
12月10日(土) 午後1時半より
平和学園創立70周年記念

大同窓会には以下の先生方が出席されます。まだまだ増えます!!

岡本 俊二	鶴澤 希伊子	錦 織 充
岡崎 晃	福島 光夫	増 渕 秀俊
神白 秀之	中嶋 皓夫	夏 村 充
山田 千恵子	飯野 義子	木 村 功
井本 克二	黒岩 唯子	橘 明子
佐藤 陽明	高岸 博康	勝間 垂紀子

(敬称略・順不同)



Facebook 始めました!!

試験運用しています。
お立寄りください。



平和学園創立70周年そして小学校は100年目

平和学園小学校の前身である白十字会林間学校が設立されて今年で100年目です。ここでその白十字会林間学校の歴史をさっと振り返ってみたいと思います。

明治末期に、当時国民病といわれた結核予防を目的として白十字会がキリスト教信徒医師18名により設立されました。そして、結核に侵されやすい虚弱児童を都会の煤煙と塵芥から、日光と空気と栄養が十分な環境に移して体力増進を図り、結核蔓延の根を断つとともに一定の教育を行う考えから、1917年に神奈川県高座郡茅ヶ崎町小和田浜（当時の表記）に常設寄宿舎制の白十字会付属私立林間学校を創設しました。この時の敷地は現在の北キャンパスと現在の白十字会林間学校を合わせたものでした。虚弱児教育を行う日本最初の学校です。

同年8月1日に7歳から12歳の10名の生徒をもって開校し、翌1918年3月の第1回卒業生は3名だったそうです。生徒たちは松林の中に点在する寮舎と教室そして屋外の自然の中で学習と療養を続け、次第に生徒は増えていきました。1923年の関東大震災では12棟の建物のほとんどが壊滅し、復興は容易ではありませんでした。戦時期に入って1941年4月、国民学校令施行のときに村島帰之先生が第4代校長とな

りました。戦争末期には都会からの疎開児童や病弱のため学童疎開についていけない児童の転入が目立つようになりました。生徒数127名で始まった1945年度5月には63名が新潟県六日町に集団疎開しました。そして終戦時に親元に帰るなどして、9月に引き揚げてきた生徒は9名だったということです。

戦後の混乱期に学校制度と児童福祉制度が変り、これまでの常設寄宿舎制虚弱児教育施設としての学校の存続が不可能になりました。村島校長先生と1926年から白十字会理事を務めていた賀川豊彦先生は、1946年に白十字会林間学校の全寮制をやめて通学生も入学するようにし、そして平和女学校を開校しました。これが平和学園の始まりです。

1950年度から白十字会林間学校の教育の部分が平和学園小学校となりました。そして白十字会林間学校は、児童養護施設として平和学園のお隣で役目を果たしています。

*参考文献

平和学園50年の歩み（平和学園発行・1997年）

茅ヶ崎の小さな学校（桐山直人著・草土文化発行・1999年）

創立者に思いを寄せて

平和学園小学校 校長 橋 明子

卒業生をはじめ、平和学園を支えてくださる皆さまお元気です。今年度もよろしくお願ひいたします。

さて、新入生を迎えて、2016年度がスタートしました。新しい風を運んできてくれた新入生を在校生の子どもたちが、温かく迎える姿に平和学園らしさが滲み出ていました。嬉しい一年の始まりでした。平和学園の温かな校風が現代の社会において、特に教育機関にはとても大切だとよく言われます。しかしその評価とはつながらない状況が今の小学校にはあります。今年度の新入生は8名でした。学校全体でも78名の児童数で、過去一番少ない人数です。私たちは、神さまから与えられた一年生ひとり一人に寄り添った教育を大切にしていきたいと考えています。少人数だからこそその教育を目指し、あたたかな校風の学園であり続けたいと思います。

今年度、平和学園は70周年を迎えました。この一年間を通して、70年の歴史を振り返るとともに、新たに志を持ち歴史を繋げていこうと思います。幼稚園・小学校・中学校・高等学校の4つの学部が創立者である村島帰之先生・賀川豊彦先生をはじめ、平和学園の歴代の先生方に感謝しながら70周年の一年間を過ごしていきます。秋には学園を挙げての行事や記念礼拝、オープンスクールが予定されています。卒業生の皆様、是非お越しください。現在の学園に流れるものはきっと、皆様が生きた当時と変わりないと思います。そして、皆さまの当時のお話を聞かせていただけたら嬉しく思います。

茅ヶ崎の街は大きく変わり、学園の周りも昔の面影があまりないかもしれません。近隣は住宅地となり、松林もほんの少し残っただけです。しかし、温かい校風とゆったりとした雰囲気は変わらなく引き継がれています。ひとりでも多くの卒業生が来校されることを心待ちにしております。

また、平和学園小学校には、70周年に合わせて、100年の歴史があることをお知らせしたいと思います。平和学園の始まりは、学園の敷地のお隣にあります白十字会林間学校です。そして、小学校は白十字会林間学校の歩みから数えられています。ですから、2016年度卒業の式次第は、第100回ということになります。学園が幼稚園から高等学校までである学園としての歴史が始まったのが70年前、小学校はその前の歴史から繋がって100年ということになります。平和学園が大切にしている書籍「平和のこころ」には、創立者の思い、先生方の思いが記されています。100年の歳月、その時代を駆け抜けてきた人々が社会の変化に苦しんだこと、また辛いこともたくさんあったことも記されています。現代を生きる私たちには想像もつかないことです。しかし、どんな時代背景があろうとも、キリスト教を土台とした学園の教育は変わることなく今でも受け継がれています。そして、「平和のこころ」には、子どもたちへのメッセージも多く記され、創立者の深い思いが込められています。

今年度も、4月に「プレイデイ」という行事がありました。一年生ようこそという日であり、Home coming dayとし、卒業生お帰りなさいという一日を過ごしました。この一年は毎日がHome coming dayでしょう。「お帰りなさい。ようこそ」を合言葉に今年度もよろしくお願ひいたします。

70周年を祝う

学校法人平和学園 理事長(1959年卒) 山口 洋一郎

平和学園創立70周年おめでとうございます。

私は昭和34年卒です。その頃、クラスは一つだったり二つだったりしていましたが、大体40名程度でした。松林の中に2クラス一棟の木造校舎がぽつんぽつんと建っていました。周りは砂の遊び場で、皆で走り回っていたのを思い出します。礼拝は毎日あり、五十嵐先生のピアノで賛美歌を歌い、大人しく牧師先生のお話を聞いていた記憶があります。その中には賀川先生もいらしたのかもしれませんが、全く記憶にありません。村島先生には、時々授業が終わると級友と学園の傍のご自宅にお邪魔し、窓越しに先生とお話したことを覚えています。

しかし、体の中に教えがしみ込んでいたのでしょうか、大人になっても学園で学んだキリスト教精神言い換えれば「人のために尽くす」という心はずっと私の心棒になっています。

その村島先生に「卒業生の中から理事長、学園長、校長が出てほしい。」とのつぶやきがあったそうですが、わたくしが図らずもその小学校卒業生として最初の、第9代理事を拝命しました。

昨今、お二人の足跡を知る機会が多く、賀川先生・村島先生が残された功績、そして目指されたことを改めて認識することができました。特に賀川先生は終戦後、世界を駆け巡って世界平和実現目指して世界の人々に説いて回ったことです。具体的には「世界連邦」設立に尽力され果たすことはできませんでしたが、その活動が認められてノーベル平和賞に2回ノミネートされたことはよく知られています。

今、平和学園、アレセイア湘南が目指している教育方針は幼少中高一貫のグローバル教育です。この方針は建学の精神、「キリスト教信仰にもとづき、自由で平和で暖かい愛の学園を築き、神を信じ、隣人を愛する人、真の平和をつくる真の人を世に送り出すことである」にぴたりとあります。

「グローバル教育とは、単に語学力を身に着けるということではない、まして資本主義経済において世界で戦える企業戦士を育てるものでもない。異民族異文化を理解し、世界が平和にともに生きていく為の能力を身に着けるものである。」と一昨年の夏季教員研修会で早稲田大学の山西先生が定義づけられました。

同窓生の皆さま、ぜひ、以前の学園を懐かしむだけでなく、これからの学園特に小学校の発展にご協力ください。

そして、70周年記念行事として、記念礼拝とオープンスクール、70周年記念平和祭などを計画しています。ぜひ、この機に学園においでください。

70周年を祝う

(1960年卒) 木村 昇

こんにちは。私は昭和35年卒業の、木村昇です。当時は木村彰利といいました。

通称はパールと呼ばれておりました。もともと家族の中でパールと呼ばれており、学校でも友達や先輩、そして、担任の(真能先生)まで親しみを込めて、そう呼んでくれました。

平和学園小学校での6年間はとても良い思い出ばかりです。私の生まれた昭和22年は戦後のベビーブームで生徒が一番多かった時期でした。ですから、クラスも1年から5年までは、2クラスでした。6年ではひとつのクラスになり、クラスでは50人以上いたとおもいます。小学校時代低学年の1年生から3年生までは、あまり記憶が鮮明ではございませんが、4年生からはかなり覚えています。4年生の時ソフトボールをやりました。私には、2年上級に兄が居りましたので4年生と6年生で対戦したことを覚えています。それから、4、5、6年生が入り混じって、野球チームを作りました。そのおかげで6年の時、野球チームを作り茅ヶ崎小学校のチームと野球の試合をして見事に勝ったことを覚えています。

また学校の帰り道は楽しかったです。自転車で通って居たのですが3、4人一緒に帰りました。途中で野イチゴ???を採ったりアイスクリームを食べたりしました。通学路は畑の真ん中に細い道が有り、そこをみんなで毎日通っていました。

また夏休みになると、家が茅ヶ崎の海岸で海水浴場の近くでしたので、ほぼ毎日海に行きました。早朝6時頃海に行くと、ときには漁師さんが、地引網を引いておりそれを手伝うと少し分けてくれました。

また正月の2日、3日は箱根駅伝です。今と違ってラジオ放送しかなく今ほど一般的に浸透してはいませんでした。見物に行く結構賑わっていて、選手の後ろを伴走車が付けて選手に大声をかけながら通りすぎていったのを鮮明に覚えています。見物人も一緒になって大声を出していました。

平和学園では秋になると運動会です。当時は小学校から高校まで一緒になってやっていました。私は結構、運動神経が良かったのでスエーデンリレーには毎回出て居ました。私の家がレストラン『ケテル』を経営していたので学校に頼まれてホットドックを販売しました、カレーパンが1個15円位の時100円だったと思いますがとても好評でした。

小学校5年6年の時の担任は、真能先生でした。とても思いやりが有り優しくて私は大好きでした。

授業では英語が有り、クラスでは普通位だったのですが、中学に行ったら英語だけはトップクラスになりました。

そんな平和学園は今年創立70周年だそうです。おめでとうございます。今後も100周年に向かって継続発展して行ってください。

若鳩ぞ まつの木陰に はね休む
潮や香らん 吹けるそよかせ

(2011年卒) 神戸 直幸

私は平和学園について振り返って思うことを私の見解から書かせていただきます。まず、平和学園で培ったことは以下の2点に集約できます。1物怖じせず主体的に発言できること。2他者やモノに感謝(配慮)すること、の2つです。

1つ目について：現状自ら主体的にグループや組織を動かすリーダーになろうとする人が確かにいます。一方で授業中黙って先生の話を聞きそれをノートに取るだけという人や部活動でも上の人の言うこと聞くだけという人が多い気がします。草食系男子の急増です。こうした現象を産む背景には学校においてとりあえず上の人のいうことをそのままやるだけで何とかになってしまう教育が今まであったのでしょうか。しかし、平和学園では少人数ということもあり小学校6年間で様々な行事を通じ自ら行動する 때가多々有ります。たとえば、収穫感謝で、卒業論文で、みんなの前で発表をします。自分で発表する内容を考え自ら壇に立ち堂々と発表する機会を与えられます。なぜなら、平和学園は少人数で1人1人の活躍する場があるからです。よって、自ら動かねばならないその opportunity をいただけたわけです。

2つ目について：他者やモノに感謝することです。現状を鑑みると、驚いたことは他者の発言に敬意をもたない、あるいは必要以上に侮蔑する、などがあつたように思われます。これはおそらく「他者への感謝」の欠陥にあるのだらうと思います。対して平和学園は自然教室など他学年と寝食を共にするなど縦のつながりがあります。そこでは下級生は上級生に配慮してその指導を真摯に受け、上級生は下級生をリーダーとして優しくする機会が与えられました。これにより幅広い他者への配慮、はたまた深い交友ができたと思います。また先生方も温かい言葉で生徒を励まし、時に指導し心を導いてくださったと思います。

その平和学園の指導のおかげで今の私があります。以上2点の特色のある環境のおかげである程度は成長できたかなとは思いますが、しかしながら、偉そうなことばかり申し上げてしまったわけですが、今完全に人前でお客さんの心に残るような話をできているわけではありません。まだまだ訓練は必要です。他者への配慮もまだまだです。でもこの平和学園6年間で学んだことは何らかの形で目には見えなくても生かさればと思っております。また、平和学園の卒業生の中に社会で活躍される人たちが増えること願っております。

第10回 進路を考える会 「劇場の裏方、表方」

2015年度第3回目の進路を考える会(小学校5、6年生と中学生が対象)が、講師に平和学園幼稚園、小学校を卒業の國松真知子氏(現在東京芸術大学講師)を迎えて、2016年2月8日(月)午前9:00より上記の演題で賀川村島記念講堂に於いて行われました。

始めにモーツァルト作曲のオペラ「フィガロの結婚」の序曲の映像が3分程度流れて國松さんのお話が始まりました。まずは50年ほど前の学園内で撮った学友たちとの懐かしい写真が映し出され私の音楽とのかかわりの原点ですと紹介。

表題の劇場の裏方、表方の劇場は18世紀に作られたスウェーデンのドロットニングホルム宮殿を例に建物の各部所の解説に始まり、裏方については舞台の下(奈落)で働く人達がおり、また舞台上では床が凸凹になっていて必要に応じて上下に動きしかも奥に向かって傾斜しており緞帳を境に中と外と言う分け方をしている説明があり、この傾斜を利用して背景の絵と合わせて遠近法を取り入れ奥行を出し、絵はほぼ全て布(写幕)に描かれているとの事です。

そして表方は、まずオーケストラ。普通50人から60人程度おり多い時は100人を超す時もあり、そして歌

い手、合唱団、バレエの踊り手、その他出演者などやはり多い時は数十人から100人を超すこともあり、そして楽譜をもとにそれぞれのパートごとに自分の役割を裏方も含めて舞台監督の指示のもとに演じることになるそうです。

國松さんはこの楽譜の中から「喜怒哀楽」を表現し、また「長所短所」を見出すようにするそうです。また日本地図も日本を中心にした地図ではなく、他の国の地図を映し出しこのように見ると全然違った感じに見えます、同じように人もいろいろな方面から見ると面白い面が見られるのではないかと思いますと説明。

最後に「国語・算数・理科・社会」他にも皆さんは勉強されていると思いますが、この何のつながりが無いように思われる学科も大人になり仕事をするようになると全部繋がってくるのです、外国語も必要ですし、舞台装置もどこに置くか計算が必要です、理科も例えば雪を降らせるのにどうしたらよいかまた効果的か、そして社会も演じる時代背景や風習によって衣装や道具を変えることになるのです、皆様もこの基礎的な勉強をいっぱいすると世界がどんどん広がるのではと私は思います、と締めくくりました。



(4)

第30回 クリスマス・チャリティー・パイプオルガン・コンサート

2015(平成27)年12月4日に30回目の節目のコンサートが、オルガニスト西尾純子氏とソプラノ大岩千穂氏を迎えて、盛大に行われました。村島帰之先生没後50年、賀川豊彦先生没後55年のクリスマスであり、定員600名の賀川村島記念講堂にほぼ満員のお客様とともにお二人の遺徳を偲びました。

第31回 クリスマス・チャリティー・パイプオルガン・ファミリー・コンサート

平和学園創立70周年記念

日時:2016年12月10日(土) 午後1時半開演
会場:平和学園 賀川村島記念講堂
出演:後藤香織氏

※ 入場無料(先着550名まで)



第7回 ジャズ・ライブ・コンサート・イン 茅ヶ崎

平和学園・アレセア湘南校友会では、5月21日に第7回目のジャズ・ライブを開催。第4回、第5回に来演された日本のジャズの歴史の生き証人といった大御所3人・テナー・サクスの尾田悟氏、ドラムスの猪俣猛氏、ピアノの秋満義孝氏に加えて、ベースの根市タカオ氏、テナー・サクスの及びクラリネットの右近茂氏、ヴォーカルの野村佳乃子さんを迎えて、スウィング・ジャズを楽しみました。入場者は、これまで最高の450人を数えました。



The 8th JAZZ LIVE CONCERT IN CHIGASAKI

来年の第8回コンサートは下記のように予定しています。

日時:2017年5月20日(土) 午後2時開演
会場:平和学園 賀川村島記念講堂

※ チケットは2017年3月より発売予定



2015年度会計報告 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
維持会費	272,463	維持会費振込料	10,270
新卒者入会金	210,000	「まつかぜ」印刷費	259,000
バザー売上	14,900	「まつかぜ」送料	155,698
バザー出店者協力金	135,180	小学校PTAへの寄付金	100,000
預金利息	717	通信費	20,981
		バザー仕入等	7,600
		新卒者記念品	52,164
		印刷費(学園広報等)	105,613
		通信費	8,118
		会議費	44,118
		消耗品雑費	2,343
小計	633,260	小計	765,905
前期繰越金	3,967,764	次期繰越金	3,835,119
合計	4,601,024	合計	4,601,024

2017年度 児童募集

第1回入学選考 選考日 10月18日(火)
第2回入学選考 選考日 11月17日(火)

転入学児童募集

欠員のある学年 男女若干名を募集

(学校案内)

体験入学:7月2日(土)
オープン・スクール/学校説明会:6月23日(木)
イブニング説明会:7月15日(金)
学校説明会:9月17日(土)
オープン・スクール:10月5日(水)~7日(金)
小学校で遊んでみよう:3月22日(水)
学校見学/個別相談週間:お問い合わせください

(公開行事)

平和をともに:9月16日(金)~17日(土)
創立70周年記念礼拝:10月5日(水)
学芸会:10月29日(土)
バザー:11月3日(木)
クリスマス礼拝:12月16日(金)
学習発表会:3月2日(木)

いずれも詳細は電話でお問い合わせ下さい。
TEL 0467-87-1662



バザー

11月3日(木・文化の日) 11:00-14:00

気軽にお出かけください。出展(販売・展示など)希望の方も募集しています。



小学校同窓会への連絡

メール・アドレス: heiwigakuen@gmail.com
郵便: 253-0031 茅ヶ崎市富士見町 5-2

平和学園内平和学園小学校同窓会
電話: 0467-87-1662 (平和学園小学校) 同窓会への連絡がある旨お話いただければ、折り返し電話を差し上げます。



維持会費納入のお願い

維持会費は同封の振込用紙を利用して納入していただきますよう、お願いいたします(振込料無料)。

1口1,000円、何口でも結構です。

卒業後10年間は免除となりますが、発送作業の関係から、全員に振込用紙を同封しています。



職員動静

所澤 保孝 学園長(新任) 中山 洋司 学園長(退職)
大野 仁 先生(退職) 高木 優子 先生(8月から産休明け)



編集後記

10月8日の大同窓会で、多くの皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

紙面・企画に、ご意見をお寄せください。